

会計学 標準的問題例

1. 次の用語について、3~5行程度で説明しなさい。

- (1) 包括利益
- (2) 包括主義
- (3) 残余利益モデル
- (4) 経済的発注量 (EOQ)
- (5) スラック (Slack)

2. 次の (1) または (2) のいずれかの問題を選択し、解答しなさい。解答に際しては、選択した問題番号を明記すること。

(1) 「収益認識に関する会計基準」に基づく売上割引の会計処理方法を説明しなさい。

(2) A社は組立型産業に属する精密機械メーカーであり、一般消費者向けの製品を量産している。生産方式は、個流しをするのではなく、各製品にロット別に流している。具体的には、X製品5,000個を生産し、次に段取作業を行ってY製品3,000個を生産するといった形で生産を行っている。A社は標準原価計算を実施したいと考えているが、①シングル・プラン、②パーシャル・プラン、③修正パーシャル・プランのいずれの記帳方式を採用すべきか、その理由とともに答えなさい。

3. 次の (1) または (2) のいずれかの問題を選択し、解答しなさい。解答に際しては、選択した問題番号を明記すること。

(1) 次の条件①~⑦に基づき、当期 (×3年度: ×3年4月1日~×4年3月31日) の財務諸表に計上される退職給付引当金および退職給付費用の額を求めなさい。なお、解答は金額のみでよい (計算過程を示す必要はない)。

- ①当社は、従業員非拠出の確定給付企業年金制度を採用している。
- ②期首の退職給付債務の額は15,000千円、期首の年金資産の額は10,000千円であった。
- ③×3年4月1日付で平均3.5%の給付水準の引下げを行った。これに伴う過去勤務費用の発生額は500千円であった (利息費用の計算に反映させる)。過去勤務費用については、10年間にわたり定額法で費用処理する。
- ④当期の勤務費用は、1,100千円と算定された。
- ⑤割引率は4.0%、長期期待運用収益率は4.5%とする。
- ⑥当期の年金基金への拠出額は1,500千円、年金基金からの年金支払額は880千円であった。
- ⑦×4年3月31日における年金資産の時価は、10,800千円であった。当期における年金

資産の実際運用収益率が長期期待運用収益率 4.5%を下回ったため、数理計算上の差異が発生した。数理計算上の差異については、発生翌期から 15 年にわたり定額法で処理する。

(2) 次の条件①～⑤に基づき、各問に答えなさい。

①当社は、第 1 年度の期首に行う予定の耐用年数 3 年の設備 7,200,000 円への設備投資案について検討を行っている。この投資案によって増加する今後 3 年間の税引前当期純利益は、第 1 年度 500,000 円、第 2 年度 320,000 円、第 3 年度 300,000 円である。

②当社の資本コストは 5%であり、現価係数は次のとおりである。

1 年	2 年	3 年
0.9524	0.9070	0.8638

③資本コストは、税を考慮したものとする。

④設備は、残存価額をゼロとし、定額法によって減価償却を行う。

⑤法人税等の税率は、40%とする。なお、当社は、将来において十分な利益を確保できるものとする。

問

(1) 第 1 年度末の割引計算前のキャッシュフロー（税引後）の額を求めなさい。なお、計算過程を示す必要はない。

(2) 正味現在価値法に基づき、投資を実行すべきか、計算過程も示して答えなさい。

(3) 第 3 年度末に設備を 170,000 円で売却可能と予想される場合（第 3 年度末の税引前当期純利益 300,000 円にはこの 170,000 円は含まれていない）、第 3 年度末の割引前キャッシュフロー（税引後）の額を求めなさい。なお、計算過程を示す必要はない。

以上